

クラシックで親睦を深める

旭亀くらぶがミニコンサートを開催

1月22日、旭町桜田集会所で旭亀くらぶ（清水義晏代表）主催の新年会が開催され、元仙台フィルハーモニー管弦楽団奏者によるミニコンサートが行われました。同くらぶは、地区内に住む60歳以上の高齢者の集いで、住民同士の懇親などを目的に3年前に設立。現在33人が登録し、これまで懇親会や、そば打ちの実演、自治会との合同芋煮会、生活不活発病予防の講習会などを開催してきました。この日は、ピアノとオーボエの奏者2人を招いて、クラシックのほか知床旅情など歌謡曲を演奏。参加者は2人が奏でる音色に聴き入っている様子でした。



1・2 元仙台フィルの2人が奏でる名曲に酔いしれる会場

白川中学校テニス部のチームが2連覇！

第26回市民綱引き大会

2月5日、「第26回市民綱引き大会」をホワイトキューブで開催しました。43チーム約500人が出場した今大会は、白石三省塾柔道スポーツ少年団の三島妃陽さんの選手宣誓でスタート！小学生の部は白二小「アニマルスターズ」が優勝、中学生の部は白川中テニス部のチーム「ほわいとりばーver.2.0」が2連覇、一般の部は「大笑い」が2年ぶりにの王座を奪還！「ほわいとりばーver.2.0」の小畑弘基監督は「練習の成果を発揮できました」と、「大笑い」の高野仁監督は「前回予選敗退した悔しさを晴らすことができました」と話してくれました。



▲中学生の部で2連覇した白川中テニス部のチーム

歴史の理解と交流を促進

歴史交流講演会を開催

1月28日、中央公民館で「白石市・登別市 歴史交流講演会」を開催しました。この日は、北海道とアイヌ文化の関係や片倉家主従の北海道移住について登別市の学芸員2人が講演。菅野修広さんは、本州の弥生時代に当たる年代から、北海道独自の文化が生まれ発展した歴史を各時代にわたって説明。平塚理子さんは、戊辰戦争後の仙台藩の様子を説明しながら、片倉家主従の北海道移住までの経過を文書で解説しました。来年が戊辰戦争150周年を迎えることもあり、会場には市民など約70人が参加し、熱心に2人の講演を聴いていました。



▲北海道とアイヌ文化の深いつながりについて講演する菅野さん

白石にいらっしゃ〜い！

しろいし しごと・暮らし体験ツアー

2月9～10日の2日間、本市に興味を持ってもらい、本市へのUJターン就職と移住の促進を図ろうと、「しろいし しごと・暮らし体験ツアー」を行いました。このツアーは「平成28年度みやぎ移住・交流推進モデル事業」として開催し、首都圏在住の学生が対象。初開催の今回は3人が参加しました。参加者はNECトーキン(株)、トードエナジー(株)白石工場、(株)きちみ製麺の3社を訪問・見学。参加者は「今回ツアーに参加して、白石の魅力をたくさん見つけることができました。卒業後は白石に住んで白石で働きたいです」と話してくれました。



▲(株)きちみ製麺で温麺の製造過程を学ぶ参加者たち（前列3人）

清流に浸して甘みが増す

「寒ざらしそば」の仕込み作業

1月20日、「大寒」のこの日、毎年恒例となった「寒ざらしそば」仕込み作業が白石スキー場から林道を2km入った溪流で行われました。今年で14回目となるこの作業には、白石興産株式会社の社員や小原のなごみ茶屋などのそば店の経営者9人が参加。氷点下3度の気温の中、福岡八宮産を含むそばの実「玄そば」540kgを水温0度の蔵王の清流に浸しました。「寒ざらしそば」はアクと渋みがぬけてほのかな甘みが増し、つるりとしたのど越しが人気です。市内では、材木岩公園内「なごみ茶屋」で3月17日から提供されます。ぜひご賞味ください。



▲水温0度の清流に「玄そば」を浸す参加者たち

歴史や文化を世界へ発信！

白石市歴史文化アドバイザーを委嘱

2月3日、白石市の歴史や文化を広く内外に紹介し、本市の地域振興を図るため「白石市歴史文化アドバイザー」を設置しました。アドバイザーには日本舞踊家で市社会教育委員を務める麻生菜穂美さんと、東北大学東北アジア研究センター准教授の荒武賢一朗さんの二人を委嘱。本市の歴史文化に関する情報発信と普及啓発に取り組んでいただくとともに、歴史文化を次世代へ継承していくための活動や保存研究活動に対する助言なども行っていただきます。麻生さんは「これからも郷土に誇りを持って人材を育てていきます」と話していました。



▲委嘱状を手に記念撮影する麻生さん（右）と山田市長

100歳おめでとうございます

佐藤ちかさんに松竹梅敬老祝金

1月24日に100歳を迎えた佐藤ちかさんを山田市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝いました。ちかさんは、市内大鷹沢三沢の出身。若いころに名古屋市の製糸工場で働き、結婚を機に白石へ戻って農業に従事。現在、子どもが6人、孫が10人、ひ孫が10人います。ここ数年、眠って過ごすことが多くなりましたが、それまでのちかさんの趣味はテレビで相撲を鑑賞することやざるなどの竹細工を作ること、好きな食べ物は甘いもの。ご家族は長生きの秘訣を「お姉さんも105歳の長命なので家系によるものではないか」と話してくれました。



▲ちかさんの長寿を祝うご家族と山田市長

心の中の鬼をやっつけろ！

市内の園児がすまゐひろばで豆まき

2月3日、認可保育所あそびの森とひかり幼稚園の園児約200人が、すまゐひろばで豆まきをしました。この催しは、白石まちづくり株式会社（吉見光宣代表取締役社長）が毎年企画。ひろばには、子どもたちの心に潜む赤鬼「いたずら鬼」、青鬼「かぜひき鬼」、黄鬼「散らかし鬼」が登場すると、園児たちは新聞紙で作ったお手製の「豆」で鬼をこらしめました。園児たち自身が「散らかし鬼」にならないように「豆」を拾い集めた後、反省した鬼たちと仲直り。一緒にダンスを踊り、訪れた人々を楽しませていました。



▲赤鬼に向かって「豆」を投げる園児たち